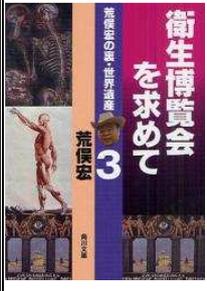
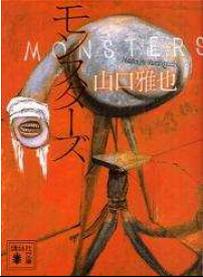
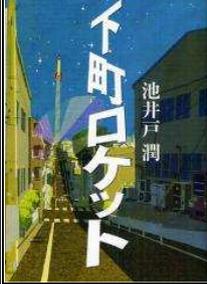
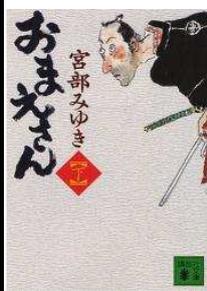


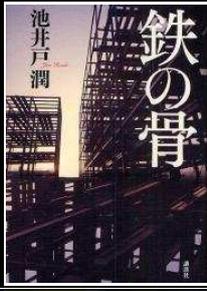
001 健

	読書日 2011年	タイトル	著者 出版社	表紙	コメント	評価
1	0729- 0802	チヨ子	宮部みゆき 光文社文庫 500円		4つの短編と1つの中編を揃えたホラー&ファンタジー。短編は和洋の古典的なストーリーを宮部調にアレンジした感じの作品で新鮮味には欠けるが日常に潜む切なさ、悪意、愛情などが加味されている。中編の「聖痕」は不可解な連続事故死が神の啓示なのか悪魔の所業なのか重苦しく描かれ宗教の暗黒面に引きずり込まれるような後味の悪い作品になっている。	
2	0729- 0802	荒俣宏の 裏・世界遺産3 衛生博覧会を 求めて	荒俣宏 角川文庫 860円		衛生博覧会とは都市における犯罪、伝染病、性病の蔓延を予防するため警察・衛生局などが主催していたがいつしか猥雑と猟奇を売りにした見世物と化しその様子は乱歩の作品にも描かれている。今は無き衛生博覧会の実態を研究した「衛生博覧会を求めて」は以前ぶんか社から出版されている。売上は3,000部程度と低迷。確かに好んで購入するような内容なものではない。そのためその後の研究成果を発表する機会が無かったものを著者の希望を汲み角川が前作を補完する形で出版に踏み切ったもの。惜しむらくは著作権の関係で前作の掲載写真が大幅にカットされている部分があることだ。	
3	0803- 0807	カラスの親指	道尾秀介 講談社文庫 780円		詐欺を生業にする中年2人組。偶然助けた少女に居座られ同居することに。さらに同居人が増え6人の奇妙な共同生活が始まる。ネタバレになるので詳しくは書けないがそれぞれ過去が暗い因縁でつながっているがお互いにはそれを知らない設定。やがて過去のしがらみを清算して再出発を図るため共通の敵である闇金のボスを詐欺にかける。ラストにはもう一つの仕掛けがしてあり道尾作品にしては珍しくハッピーエンドの形をとっている。	
4	0808- 0811	風の中のマリア	百田尚樹 講談社文庫 580円		昨今、TVで危険なものとして特集されるスズメバチ。本作品の主人公は戦闘と狩りを担う腕利きの働きバチ。その働きバチのマリアの眼を通して擬人法で描いた生態記ともいえる作品。内容が詳しく少年期に読んだ昆虫記を思い出させる。マリアは働きバチとしての行動の意味に理由を考えることもあるが自分の役割を果たすことに強烈な意志で立ち向かう姿が清々しい。	
5	0811- 08xx	野性時代 2011年9月号	角川書店 680円		柳広司の「ジョーカゲーム」第3シリーズ「失楽園(パラダイスロスト)」を掲載。 真珠湾攻撃と同じ日行われた対英戦の奇襲攻撃がマレー進攻作戦。世界的にも有名になった電撃的な快進撃だった。日本軍の進攻を予測し防衛線を張っていたのに大惨敗を喫した原因は？。「東洋の真珠」、「神秘の楽園」と言われたシンガポールを舞台にD機関のスパイが仕掛けた罠を史実に潜り込ませたストーリー。	

6	0813-0815	粗茶を一服 損料屋喜八郎控え	山本一カ 文春文庫 530円		シリーズ3作目の連作短編集。 前2作では敵役だった札差の本店伊勢屋だが今回は互いに認め合う場面もある。 その伊勢屋を潰そうとする同じ札差の陰謀。 先の棄捐令で江戸に吹き荒れた不景気、大損させた札差への詫びの意味合いで幕府が配給する3万両分の御助け米の配分を巡る札差同士の駆け引きがメイン・ストーリー。
7	0816-0823	モンスターズ	山口雅也 講談社文庫 730円		都市伝説もの、不条理なもの、意味不明の作品、ホラー、伝奇ものなど6編の短編集。 最近のホラーものとしては異色の作品があり評価できる。表題作のモンスターズはかつてナチスドイツが人体実験を繰り返し怪物を作り出し戦闘部隊を作ろうとしていた言い伝えを基に作られたと思う作品で読み応えがある。
8	0821-0824	ビブリア古書堂の事件手帖 -葉子さんと奇妙な客人たち-	三上延 メディアワークス文庫 620円		病的なほど人見知りの激しい主人公の古書店の店主「葉子」。設定がカマトト過ぎるところもあるが本の事になると饒舌になり豊富な知識で本にからむ事件の謎解きをしてしまう。よく知っている作品や作家の知られざるエピソードが事件の解決になっていて本好きには結構たまらない。 舞台が北鎌倉ということで行ったことも多いので場所、店などモデルが想像できて作品に馴染める。
9	0824-08xx	オール讀物 2011年9月号	文藝春秋社 1,000円		●池井戸潤の「下町ロケット」直木賞受賞を記念した特集掲載。著者の自伝エッセイと東野圭吾との記念対談のほか作品冒頭部分と選考委員の評価も載っている。 ●万城目学と門井慶喜の往く「横浜近代建築散歩」は地元だけに注目。
10	0825-0827	歌舞伎町セブン	中央公論新社 菅田哲也 1,680円 (古840円)		歌舞伎町セブンとはかつて歌舞伎町が無法者の町だった頃、無法者なりのルールを破る者たちを排除するために立ち上がった7人の暗殺者の総称。今は商店会の会長やバーの店長などに収まって年を重ねている。今やすっかり忘れられているかつてのセブンの仲間が次々不審死を遂げる。残ったメンバーと正体不明の殺人者との戦いなどサスペンス感覚は十分味わえるが正体が分かるにつれて陳腐な感じがしていくのが残念。
11	0828-0831	完盗オンサイト	玖村まゆみ 講談社 1,575円		第57回江戸川乱歩受賞作。 報酬は1億円。厳重警護の皇居に侵入し徳川家康も愛でたという盆栽「三代将軍」を盗むという依頼を受けたフリークライマー水沢。テーマが非常に面白いが依頼の経緯にリアル感がないのがマイナス。但し、盗みの現場が皇居とあって犯罪計画の中身に興味が湧き楽しんで読めた。 巻末に選評が載っていて評価の分かれ具合を読むのも面白い。

12	0901-0904	どこから行っても遠い町	川上弘美 新潮文庫 540円		谷内六郎の表紙絵に惹かれて購入。東京にある小さな商店街に暮らす者、そこを歩き交う人々を描いた連作短編集。若い夫婦、老夫婦、小学生、父子家庭、飲み屋の常連。知らない者同士でも少しずつ重なっている日々の生活。ごく平凡に見える人たちの中にある想いを繊細に描く。それぞれの想いは悲喜こももだがどこかでつながっている温もりを感じさせる作品。
13	0905-0908	蘭陽きらら舞	高橋克彦 文春文庫 680円		だまし絵シリーズの一冊。だまし絵シリーズは江戸時代のビッグネームやら、若き日の大物が多々登場するので深く考えず芝居を見る感覚で読むのが良いように思う。蘭陽はこの中では架空の人物だが今回は主役。自分は時代が合わなくなるが澤村田之助あたりを連想する。
14	0907-0915	これから正義の話しよう	マイケル・サンデル 早川書房 2,415円		人生哲学では無く政治哲学の本であるというのが重要。政治には選択と決断が必要であり、「最大多数の最大幸福」「功利主義」など自己の正当性を主張する理論の歴史を具体的な事例をあげて検証する内容。事例が実際の事件を基にしているものが多く否が応でも読者に究極の選択を迫るもの。著者も容易に正解が得られるものではないことを承知しながら永遠に考えてゆく必要性を説いている。DVDで大学での対話型講義の様子がみられるのでこちらがお勧め。
15	0909-0911	マスカレードホテル	東野圭吾 集英社 1,680円		東野作品に新たな刑事が登場。頭脳明晰、功名心があるのも若さ故の魅力になっている。連続殺人と思われる現場に残された数字から次の殺人現場が某有名ホテルであることがわかる。犯行の阻止・犯人逮捕のためホテルの協力を得てホテルマンを装い張り込みを敢行する。ホテルを訪れる客の様々な人間模様、刑事とホテルマンの立場の違いから起こるトラブルなど仕事系のネタをうまく使っている。
16	0912-09xx	野性時代 2011年10月号	角川書店 680円		東野圭吾のナミヤ雑貨店シリーズ「黙禱はビートルズで」を掲載。時空を越えて相談を受け付けるナミヤ雑貨店の郵便口。かつて店主が存命だった頃相談の手紙を投函したことがある中学生が40年ぶりに故郷に帰ってくる。アドバイスと違う生き方をした男はナミヤ雑貨店に相談したことのある者やナミヤ雑貨店の遺族が張り出した掲示物を読み、帰ってきた当初の目的とは違う行動を取る。
17	0912-0913	下町ロケット	池井戸潤 小学館 1,680円 (古1,010円)		大田区の町工場が取得した最先端技術を巡る中小企業vs大企業との戦い。特許の不備を付き勝手に模倣品を作り逆に特許違反を訴状に法廷闘争で潰そうとする大手メーカー、他方では自社製品でロケットを飛ばそうとする大企業は同じ技術を先に特許を取られていることに愕然としその特許の買い取りを画策する。かくて資金繰りにも四苦八苦している中小企業との熾烈な戦いが始まり最後には勝利をつかむ爽快感が良い。

18	0914-09xx	IN★POCKET 2011年9月号	講談社 200円		特集は宮部みゆきの江戸ものシリーズ第3弾「おまえさん」刊行にあたって「ぼんくら」「日暮らし」「おまえさん」を保存版として徹底ガイド。これまでの登場人物の略歴・所見と共にシリーズごとの人物関連図が附則されているのでこれまでの物語の経緯が俯瞰でき良いガイドになっている。
19	0921-0922	白馬山荘殺人事件	東野圭吾 光文社文庫 620円 (古310円)		白馬岳は北アルプスで初めて登った山。雪渓あり、お花畑、白馬大池、雷鳥など見所が多く人気のある山。原題は「マザーグース殺人事件」で白馬には全く関係ない。編集者の意向で白馬にある山荘という設定にし、タイトルを変えたそうだが確かにこっちの方が興味はそられる。山荘のそれぞれの部屋に掲げられているマザーグースの絵と詩が謎解きの鍵となる密室殺人&暗号の謎解きミステリー。
20	0922-0925	おまえさん【上】	宮部みゆき 講談社文庫 880円		「ぼんくら」「日暮し」に続く江戸もの第3シリーズ。登場人物もだんだん大所帯に。宮部みゆきの描く人物描写は現代人的な感覚が見られて違和感ないところが馴染みやすい。むしろ現代を舞台にすると書きづらい設定も時代物にすると書きやすいということもあるのかも知れない。
21	0926-0927	おまえさん【下】	宮部みゆき 講談社文庫 880円		今回のストーリーは痒み止めの万能薬「王疹膏」を売る薬問屋の主人が辻斬りに殺されたことを発端に犯人の捜索を始めるもの。新たに八丁堀の後輩同心、その叔父のご隠居、天才少年弓之助の兄たちが加わり魅力あるキャラクターが増え宮部みゆきの江戸物ワールドがどんどん広がっている。犯人捜査の過程で明らかになる「王疹膏」誕生にからむ因縁、人間模様、犯人を追う者の日々の心情を繊細に描写しているのも宮部みゆきならではのもの。
22	0928-0929	魔球	東野圭吾 講談社文庫 580円 (古150円)		舞台は昭和30年代。野球を手段に貧困から家族を救おうとする天才投手が主人公。高額な契約金の欲しい主人公は甲子園を賭けた9回裏2死満塁のピンチに揺れて落ちる魔球を投げ空振りさせるものの捕手が捕球できず逆転負けを喫する。大会後、その捕手が愛犬とともに殺害されて発見される。貧しい時代を経験しているので主人公のストイックな生き方に共感できる。
23	0929-0930	恥知らずのパープルヘイズ ジョジョの奇妙な冒険より	上野幸平 荒木飛呂彦 集英社 1,365円		少年ジャンプに掲載された「ジョジョの奇妙な冒険」第6部の中で組織のボスを倒そうと企てる主人公グループの中から敵前逃亡した男のその後を小説化したスピノフもの。もともとビジュアル的な劇画が元なので小説での戦闘シーンなど面白味、臨場感に欠ける。やっぱり劇画で読みたい。

24	1001-1003	超・殺人事件 推理作家の苦悩	東野圭吾 新潮文庫 460円 (古150円)		ミステリー作品を揶揄した形で作品にしている。表題作は、批評家の的を外した評に反発したのがきっかけとのこと。読んでも誰も理解できなであろう理系の理論をトリックの説明に敢えて引用。書いた本人もチェックした編集者もお手上げ。学術書の丸写しなので誤用はないとのこと。そのまま出版した経緯があるという。読まなくてもいい作品だけど東野圭吾完読には仕方がないか。内容は「名探偵の掟」と同系統の短編集。
25	1004-1007	鉄の骨	池井戸潤 講談社 1,890円 (古300円)		「下町ロケット」が面白かったのでチャレンジ。建設業界の談合をテーマにしたもの。ゼネコンの談合が社会的に問題になった後、脱談合を謳いながらさらに隠密裏に談合を画策する建設業界のエゴ、政治家の欲、談合を拒否する者たちにもそれぞれの思惑があり駆け引きを巡る戦いが面白い。現場から談合課と呼ばれる部署に配属された主人公がバランス的に弱いのが気になる。
26	1008-1008	オレたち花のバブル組	池井戸潤 文春文庫 690円 (古350円)		著者は元銀行員だっただけに銀行組織や内情の描写はリアル感に富んでいる。派閥の抗争、上司の横暴、部下への責任転嫁がはびこる中でやられたら倍返しを貫く主人公。今回は金融庁の横暴監査官参戦してドキドキハラハラの展開。何よりサラリーマン時代の不条理な扱いなどが沸々と蘇ってきて一気読み。
27	1009-1010	オレたちバブル 入行組	池井戸潤 文春文庫 690円 (古105円)		大きな夢を抱いて入行したもののバブルがはじけ負債処理に追われ続けたのがバブル組。だからこそ同期の親友の結束は固い。組織に不条理はつきものだが成績が即金額で見えてしまう銀行だけにより以上の不条理が行われる世界なのかもしれない。失敗を押し付けられる罠にはまった主人公の半沢が同期の力を借りて反撃にでる。悪役が憎たらしくはっきりしているので解決した時の痛快感が堪らない。
28	1010-1011	不祥事	池井戸潤 講談社文庫 730円 (古370円)		銀行というのは多額の現金が動く場所だけに大小さまざまな不祥事が発生しやすい。その予防するのが本店営業指導部。主役はちょっと頼りない上司とスーパー女子事務員。各支店の不祥事、事務過誤を調査・追及する中で組織の腐敗体質を暴く連作もの。ドラマにするなら青山倫子などが似合いそう。
29	1011-1014	銀行総務特命	池井戸潤 講談社文庫 680円 (古360円)		「特命」と聞くと只野係長を連想するが内容は同様。銀行内部の暗部に斬り込み汚れ作業をこなす。銀行というところは融資目的に取引先の経営状況、企業力などすべてを知る立場にあることから情報をうまく使えば不正に蓄財することも可能。情報漏洩、裏金づくり、スカーパー問題までスキャンダルの隠蔽のため指宿修平が奔走する。やがて知りすぎた男として孤立し組織の中で生き残る戦いが始まる。

30	1012-10xx	野性時代 2011年11月号	角川書店 680円		柳公司ジョーカーゲームシリーズ「追跡」掲載 絶大な親日家として知られる英国人記者プライスは世界情勢と日本の関係が悪化する中、日本に留まっている。彼には裏の顔がありひそかにスパイ活動を行っていた。本国からのミッションはD機関を束ねる結城中佐の正体を明らかにすること。わずかな手がかりを頼りに周到な調査の末辿りついた結末とは――。
31	1015-1019	シャイロックの 子供たち	池井戸潤 文春文庫 660円 (古350円)		シャイロックは「ベニスの商人」に登場する強欲な金貸しの名前。銀行業務を通して起こる事件を連作短編の形にしたもの。趣向は中小企業や町工場がひしめく町にある支店に働く各部署の銀行員の目線で事件が展開すること。たたきあげの誇り、格差のある社内恋愛、家族への思い、ノルマの負担。事件の裏には行員たちのそれぞれの葛藤が見え普通に働き、普通に暮らすことの困難さを描いた群像劇になっている。
32	1021-1023	MIST	池井戸潤 双葉文庫 700円 (古250円)		これは珍しく銀行ものではない作品。閉塞的な高原の町で起きた連続殺人に挑む地元の只一人の警察官・上松五郎。かつて東京であった未解決事件との関連に気づき真相が明らかになってゆく。得意の金融ネタもうまく使っているがこの手の話にしては不気味感に乏しいのとその気がなくても犯人が推測できてしまうのはマイナス。MIST(霧)＝正体不明の犯人という題意が泣く。
33	1024-1027	果つる底なき	池井戸潤 講談社文庫 680円 (古350円)		池井戸潤の初期作品。どんな組織でも人間関係の軋轢はあるけれどお金に直結する企業ということで銀行というところは特殊な組織といえる。三菱銀行で働いていたことある著者が銀行の腐敗を内部からの視点で描く。事件は不良債権担当者の突然の死によってもたらされる。死因は蜂によるアレルギー性ショック。死後その担当者の不正送金疑惑がみつかると。同期の伊木は濡れ衣をはらすべく調査を開始する。
34	1028-10xx	オール讀物 2011年11月号	文藝春秋社 1,000円		高橋克彦だまし絵シリーズ最新作「さやゑ歌麿」を掲載。今回は歌麿、北斎、源内など江戸のビッグネームの総出演。枚数も多く満足。
35	1029-1030	ビブリア古書堂 の事件手帖2 -葉子さんと謎めく 日常-	三上延 メディアワークス文庫 557円		前作もそうだったが事件のエピソードとして取り上げられる本は古典や近代文学が多い。今回は自分の好きな「時計じかけのオレンジ」、藤子不二雄の初期作品「UTOPIA」(足塚不二雄名義)も取り上げられているのが嬉しい。